



## 第24回大阪市立小中学校事務研究大会

### 開催にむけて

平成28年11月22日（火）13時30分～

教育センター 2階 講堂



第24回大阪市立小中学校事務研究会  
大会実行委員長 板谷 知佳

朝夕は随分涼しくなり、過ごしやすくなってきました。学校では、2学期が始まり、体育大会や文化発表会など学校行事の準備で忙しい時期ではないでしょうか。

さて、市事研では、新しい時代に対応した学校事務モデルを探究し、コンプライアンスの確保とより信頼ある確かな学校事務の実現に向けて活動しています。今年度の研究課題は、昨年度に引き続き、「つながろう！つながりから見える学校事務の向上」とし、活動の重点を「学校力が向上する学校事務モデルの研究」「信頼に応える確かな学校事務の実践」「組織力の向上」とし、研究を進めてきました。

その中で、第24回大阪市立小中学校事務研究大会実行委員会では、大会サブテーマを「共に踏み出そう！学校教育の未来へ」とし、大会にむけて準備を進めています。

記念講演には、茨城大学 教育学部 准教授 加藤 崇英 様をお迎えし、『「チーム学校」議論と学校事務職員の課題』と題し、ご講演いただきます。

研究部からは、「提案型の学校事務職員に求められるもの」(仮)と題し、昨年度の第23回大阪市立小中学校事務研究大会において発表を行った学校運営に参画する方法の一つとしての「提案型の学校事務職員」をテーマに、継続した研究発表を行う予定です。今年5月の研修会では、「学校事務職員による提案実践の経過報告」と題し、研究部員による提案の取組実践について、途中経過の報告を行いました。

今回の研究発表では実践からの検証結果などをもとに、学校事務職員に求められるものについて考えていきたいと思えます。

来年度には、政令市への給与負担等の税源移譲が行われるなど、大阪市の学校事務職員を取り巻く情勢は、めまぐるしく変化しています。その変化に対応しつつ、学校事務として担うべき役割について、みなさんと共に考える大会にしたいと思います。

第24回 研究大会実行委員名簿

役 職	名 前	所 属
実行委員長		
副実行委員長		
実行委員		

# 第48回全国公立小中学校事務研究大会(山形大会)



8月3日から5日にかけて山形県山形市に全国各地から2,000名を超える参加のもと、「自律的な学校経営と学校のガバナンス改革」～つなごう！「連携・協働」でひらく学校の未来～を大会テーマとして、第48回全国公立小中学校事務研究大会(山形大会)が開催された。

1日目は開会行事のあと、「我が国の教育の現状と課題」「学習指導要領の改訂」「高大接続改革」「教員のICT活用指導力向上」「教育の情報化の現状と課題」「事務職員に求められること」の6点を中心に文部科学省初等中等教育局 視学官 新津 勝二 様から文部科学省行政説明が行われた。最後に「10年後の高度情報化社会を生きる子どもたちのことを真剣に考え、管理職のリーダーシップのもと、カリキュラムマネジメントをつかさどる一員として、事務職員のみなさんにその力を発揮していただきたい。」と述べられ行政説明は終了した。

次の研究全体会では、全事研活動報告とパネルディスカッションが行われた。全事研活動報告では、第2期学校事務のグランドデザインについてミッション達成に向けた「人」「地域・教育行政」「組織」「研究会活動」の四つの基本的方向性の成果と課題について報告が行われ、その後、第9次研究中期計画について説明が行われた。パネルディスカッションでは、「自律的な学校経営と学校のガバナンス改革～チームとしての学校を実現する自律的な学校経営と事務職員の役割～」をテーマに3名のパネリストからそれぞれの立場での意見が出された。最後にコーディネーターが「学校組織や学校の仕組みを教育行政職員としての視点でしっかり確認を行い、実践を通して他の教職員や保護者・地域とともにこれからの学校を作っていくよう連携を取りながら進めてほしい。」と結んだ。

2日目は、6会場で分科会が開催された。

本部研究分科会(全事研本部) 地域とともにある自律的な学校経営と学校事務

第1分科会(埼玉支部) 彩の国 学校事務NEXT!

第2分科会(青森支部) 学校事務で、自律的な学校経営と学校ガバナンスを実現する学校事務共同実施リーダーを目指そう!

第3分科会(岩手支部) 笑顔が広がる いい学校を目指して

第4分科会(宮城支部) 教育課程の編成・実施をサポートする学校財務の在り方

第5分科会(秋田支部) 学校の将来ビジョンを共有し主体的に参画できる事務職員を目指して

第6分科会(福島支部) 地域とともにある学校づくり

第7分科会(山形支部) 未来をひらく学校事務を創造しよう



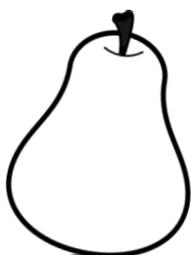
3日目は、まとめの会と記念講演が開催された。まとめの会では、大会1日目と2日目のそれぞれの担当責任者から、得られた成果やその場の様子などが報告された。その後、全事研の飯島研究開発部長より、『学校ガバナンス』の重要な要素は、『学校裁量権限の拡大』『評価』『コンプライアンス』などであり、その要(かなめ)となるのは教育行政職員である学校事務職員です。事務職員が学校にいる意味を各支部、各市町村、各学校でアピールしていきましょう。」と大会を締めくくった。引き続き行われた記念講演では、工業デザイナーでカーデザイナーでもあり、イタリア人以外で初めてフェラーリのデザインを担当された方として有名な奥山 清行 様から「これからの100年をデザインする」と題してご講演いただいた。「人間は自己学習の能力があり、苦にせず学べばいつでも変わることができる。個々の能力を生かせるチームになるには、議論が大切である。言葉の力で学んだ力をシェアし、チームで良い教育をし、変化に対応できる力を子どもたちに蓄えていってほしい。」とお話をいただいた。閉会式では、全事研の鳥本会長から閉会の挨拶があり、高橋山形大会実行委員長の閉会宣言で3日間の大会は終了した。

大会に先立ち8月2日、平成28年度全事研定期総会が開催された。開会行事のあと、平成27年度事業報告、決算報告及び監査報告、平成28年度会長・副会長及び監査の選出、常任理事の承認、平成28年事業計画(案)、予算(案)、50周年記念事業計画(案)、50周年記念事業計画予算(案)について提案があり、すべて承認された。

# 第48回全国公立小中学校事務研究大会(山形大会)

## ～第5分科会報告～

第5分科会は、秋田支部より「学校の将来ビジョンを共有し主体的に参画できる学校事務職員を目指して ～チーム力で変わる秋田の学校事務 秋田こまちプランを握りしめて～」と題し報告があった。



午前中は、単独校、学校事務センター、共同実施の三つの形態に分かれる秋田県の事務職員制度における「秋田こまちプラン」策定までの過程や、事務研の活動状況について紹介があった。続いて、ミニ講話として助言者の秋田大学 教育文化学部 教育行政研究室 教授 佐藤 修司 様から教職員が様々な視点を持つことの大切さと、学校事務職員の仕事一つひとつが子どもたちのためであることなど、「チーム学校」についてお話があった。研究発表では、秋田こまちプランの活用実践例「こまちチャレンジ」の作成を通して見えてきた成果と課題などが示された。最後に、助言者の佐賀市立中川副小学校 学校事務総括推進員 佐賀県教育委員会 東部・

西部教育事務所職員併任 古川 治 様から、学校事務の継続性の大切さと共同実施について助言があった。

午後からは、「共同実施でこんなことができそう！」「チームとしての学校で学校事務職員の役割は何？」「地域連携のために、事務職員ができることは？」の三つのテーマによるワールド・カフェ方式の討議を行った。和やかな中にも活発な意見交換が行われ、地域における学校事務職員の在り方や、主体的に学校経営に参画する事例などを学ぶ良い機会となった。

最後に、「現行制度の発想に捉われず、共同実施を更に広げてはどうかということと、研修会などで感じたことを一人ひとりがまとめ、共有することが重要である。」と助言があり終了した。



## 第34回政令指定都市学校事務職員研究協議会

7月28日(木)～29日(金)の2日間、福岡市の福岡リーセントホテルにおいて、第34回政令指定都市学校事務職員研究協議会が開催された。

1日目は、「各政令指定都市の状況報告と政令市権限移譲の動向」というテーマで、各政令指定都市より現状報告があった。事前アンケート調査をもとに、学校事務職員の採用区分・職制・職域等について、任命権者による研修会の内容、各政令指定都市事務研究会と各都道府県事務研究会との関わり、政令市権限移譲に伴う現在の状況など情報共有と研究協議を行った。

2日目は、「私費会計と子どもの貧困対策(保護者負担軽減)について」というテーマで、研究協議を行った。子どもの貧困対策・就学援助加配や事務への関わり、就学援助入学準備金の入学前支給制度導入、学校徴収金会計システムの導入、学校間連携などについて情報共有を行った。

次年度については、横浜市で開催する予定である。



# 大阪府公立学校事務研究会研修講座 報告

7月1日（金）ホテルアウィーナ大阪において、一般財団法人 児童虐待防止機構 理事長 島田 妙子 様を講師に『「虐待の淵を生き抜いて」～人にも自分にもあたらない社会を目指して～』と題して、大阪府公立学校事務研究会第69回研修講座が開催された。

最初に、島田様ご自身が過去に受けた虐待の実体験についてお話があった。島田様は7歳から約6年もの間、実父と継母から酷い虐待を受けており、何度か命を落としかけたという。とても優しくあった父が、継母の影響で精神的に追い込まれ、一緒に暴力を振るうようになってしまう。そんな父の変貌していく姿から、「虐待をしている人たちもしんどい気持ちを抱え、助けてほしいと願っている。子どもを助けるのと同時に虐待をしてしまう大人も一緒に助ける必要がある」と述べられた。また、その中で、自分自身の怒り（アンガー）の感情をマネジメントしていくことの大切さについて述べられた。



「アンガーマネジメント」とは、怒りの感情を抑えたり、我慢するのではなく、怒る必要のあることは上手に怒ることができ、怒る必要のないことは怒らないようになることであり、これを習得することで、モノを壊すことなく、他人も自分も傷つけず、怒りを表現することができる。そして、アンガーマネジメントは、①衝動②思考③行動の三つのコントロールが鍵となっていると説明があった。



## ①衝動のコントロール

人の怒りの感情のピークはアドレナリンが体内を巡る約6秒であることから、その6秒間をいかにやり過ごすかが大切である。頭にきていることを指で手のひらに書き出してみたり、深呼吸することで6秒間を上手くやり過ごせば、冷静な対応ができる。

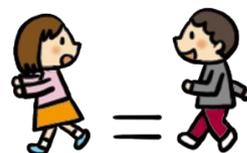
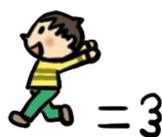
## ②思考のコントロール

私たちが怒らせるものは人や出来事であるが、その正体は、「～すべき」「こうあるべき」といった自分の願望・希望・欲求であり、自分の「べき」（＝理想）と現実には差が生じると怒りにつながってしまう。そのため、自分だけの「べき」を小さくし、他者の「べき」を理解し、「べき」の境界線を広げていくことで、他者の怒りが理解できるようになる。

## ③行動のコントロール

変えられないものに焦点を当てず、変えられるものに焦点を当てること。例えば、大切な約束をしていて急いでいる時に高速道路で渋滞にあってしまった時に、いくらイライラしても状況は変えられない。ならば、その事実を受け入れ（諦めや我慢ではなく）、対処法を探す（日程や時間の変更、下道のルートを探す）ことが行動の分かれ道となる。

最後に、「怒りは身近な対象者ほど強くなり、高い所から低い所へ流れ伝線していくエネルギーだが、すべての人が自分の感情に責任を持つことができると、私たちは怒りの連鎖を断ち切ることができると信じている。」と締めくくられた。



# 近畿地区公立小中学校事務職員研究会研修会 (サマーフォーラム)

8月23日エルおおさかにおいて、近畿公立小中学校事務職員研究会研修会が開催された。開会行事のあと、第7期調査研究部より「チームでつなぐ未来へのわ」をテーマに研究報告があった。研究を進めるにあたって、会員を対象に、小学校・中学校・教育委員会との学校間連携と、学校・地域・保護者との地域連携について、現在の連携の現状や事務職員の意識について、アンケートを実施し考察された。また、連携が上手くいかない場合やその課題、連携が上手くいく場合は何が良かったのかをそれぞれロールプレイを交えて発表があった。

休憩の後、全体研修会として、学校づくりアドバイザー 経営コンサルタント 妹尾 昌俊 様より「変わる学校、変わらない学校—学校マネジメントの成功と失敗の分かれ道—」と題し講演が行われた。

まず、「変わる学校と変わらない学校がある。両者の違いはどこで、なぜ生まれるのか。」をポイントにお話があった。まず、学校づくりは教職員の個人力だけではなく、学校の組織力次第であり、その組織力を発揮していくうえで、①到達目標（どこまで？） ②プロセス（どういった方法で？） ③チーム・ネットワーク（誰と？）の3要素が重要であり、変わる学校と変わらない学校には、その3要素での取組の状況に大きな差があると述べられた。

変わる学校、すなわち、学校運営等の改善につながっていると実感のある学校では、学校の目標を重点化しており、教職員が納得するような学校の目指すべき方向性・ビジョンを校長が明示していることで、到達目標の共有ができています。また、その目標までのプロセスの設計を、学校や教職員の具体的な行動として記述されている。そして、校務分掌等を活用して、学校評価で計画した取り組みを特定の個人への依存ではなく、チームワークよく取り組み、地域や外部との連携・協力を密に行うことで、チーム・ネットワークが構築されているということが、2009年度文部科学省学校評価推進協議会での野村総合研究所アンケートから考察できると述べられた。

最後に、今日から、9月から、あなたは何をしていくことができそうですか？と提起された。「学校というチームの目標を達成するために自分は今後、特にどんな仕事の力を伸ばしていくべきかを考えることが必要であるが、どんな仕事にも、業務を確実に遂行するための基本的な能力（＝保つ能力）が土台にあり、その上により良くする能力、またその上に新しいものを生み出す能力が乗っているとイメージしてください。土台がしっかりしていないと、上に乗っているものも崩れてしまうので、それを踏まえ、自分には何ができるかを考えてみてはどうでしょうか。」と講演を締めくくられた。

## 今後の事務研究大会の日程

第8回全国公立小中学校事務職員研究会兵庫支部研究大会	10月 7日(金)
第25回大阪府公立学校事務研究大会	11月 2日(水)
第43回奈良県公立小中学校事務研究大会	11月25日(金)
第45回滋賀県公立小中学校事務研究大会	12月 2日(金)
平成28年度京都市立学校事務研究大会	12月 9日(金)
神戸市立小学校事務研究大会	2月 9日(木)

### ～～編集後記～～



学校事務の仕事内容を知ってもらおうと思い、学期に一回だけですが、児童・保護者向けの学校事務だよりの発行に挑戦しています。学校ホームページにも掲載しています。学校に関わるお金についてのクイズを作り、答えを学校ホームページに載せることでアクセス数に少し貢献できた気がします。(A)